

令和3年度上半期

学校関係者評価委員会報告書

評価対象期間

自：令和3年4月

至：令和3年9月

令和3年12月

学校法人菊武学園

専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院

学校法人菊武学園 専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院 学校関係者評価委員会は平成3年度（2021年度）上半期自己評価報告書に基づいて学校関係者評価委員会を実施致しましたので、以下のとおり報告致します。

1. 日 時：令和3年12月2日（木）10時～12時

2. 場 所：本校4階ブライダルサロン

3. 出席者：学校関係者：

井上 幸信（フラワー業界関係者）

天野 民子（ビューティ業界関係者）

梶原 幹史（有識者/元高校教員）

後藤 潤 （卒業生/同窓会長）

高木 裕子（在校生保護者）

学内委員：

中川 信子（校長）

蓑島 哲也（学事課長）

鈴木 順子（事務課長）

欠席者： 榊原 哲夫（ブライダル業界関係者）

4. 配布資料：令和3年度上半期自己評価報告書

「建学の精神」 「学校理念」 「学校目的」 「育成人材像」

学校法人菊武学園 建学の精神

本学園の建学の精神は「職業教育をととして社会で活躍できる人材の育成」であり、本校教育の基盤である

学校理念

「本物志向の教育」、「国際教育・教育の国際化」、「師弟同行を踏まえた教育活動」、「学校文化」

学校目的

豊かな感性、高い道徳心、たくましい心身を持って、地域社会において信頼される人間、かつ、自分の一生において果たすべき役割を自覚し、進むべき道を主体的に切り開く人間の育成

育成人材像

1. 地域社会、国際社会の動向に目を向け、より良い社会の実現に向けて主体的かつ積極的に行動し、貢献することができる
2. ブライダル・フラワー・ビューティの各分野における専門性の基礎となる幅広い教養を深め、専門的な知識・技術・職業理解を身につけている
3. 他者を尊重し、多様な価値観を受け止め、様々な人々と円滑にコミュニケーションを図ることができる
4. 自らを律し、課題を発見し、他者と協働して課題解決のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる
5. 身につけた教養や専門性をもって他者に寄与できることの幸福やその重要性を深く理解することができる豊かな人間性を有している

評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評 価 項 目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2	不適切 = 1		
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④	3	2	1
学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・関係業界・保護者等に周知がなされているか	④	3	2	1
学科の教育目標・人材育成像は、業界のニーズに向けて対応しているか	④	3	2	1

○専門分野に関する深い知識と高い技術を身につけさせることに加えて、職業人として現在最も求められている「コミュニケーション能力」の育成により注力していきたい。

今後に向けての方策

○コロナの影響で、各業界のニーズにも変化が見られる。業界の動向を的確に捉え、学生の就職活動指導に活かしていきたい。

○コロナ禍における業界のニーズを的確に察知するよう鋭意努力していきたい。

業態の変化に対応できるよう、授業内容にも工夫を凝らす必要があると思われる。

※フォトウェディング

※1 to 1 コミュニケーション 家にいながら販売員とコミュニケーションがとれる

LINE や ZOOM を活用したコミュニケーション

※ライブコマース

ライブ配信で商品を紹介する配信者と視聴者で双方向に連絡を取り合い商品を確認して販売する手法

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

①長引くコロナ禍にあって、働き方や仕事内容も変化してきている。そのような変化に対応できる学生を育ていく必要がある。ネットを利用したビジネスの状況を把握し、学生にも理解を促すことが求められている。

(梶原委員)

①SNS を利用しての商品販売等が、業績を伸ばしている。学生の職場でも、そのようなビジネス手法が展開されることが大いに予想される。学生の仕事上での SNS 利用能力を高めていきたい。(学内委員 中川)

(2) 学校運営

評 価 項 目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2		不適切 = 1	
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	③	2	1
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	④	3	2	1
人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

○魅力ある学校の運営を目指し、毎年、運営方針・事業計画を策定している。

○教育活動等に関しては、本校のHPを通して随時発信中。

今後に向けての方策

○教育活動等に関する情報公開に関しては、HPを利用し更新頻度を上げ訴求力ある内容としていきたい。

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

○「学校運営」に関しては、評価委員より妥当と評価され、ご意見はありませんでした。

(3) 教育活動

評 価 項 目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2		不適切 = 1	
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
各学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
授業評価の実施体制はあるか	④	3	2	1
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
成績評価・履修認定、進級・卒業認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

○学生による授業評価については、年に2回実施。次年度の授業内容改善に向けての糧となっている。

○資格取得については資格試験直前対策授業を集中的に行い、合格率を高められるよう配慮している。更なる合格率アップに向けて努力を続けたい。

○学園主催の教職員研修が年に数回実施されている。

今後に向けての方策

○関連分野の企業・関係施設等との連携により、カリキュラム内容の改変を積極的に行っていきたい。

○校内教職員研修会を通して、学生指導・生徒募集に必要とされる能力を高めていきたい。

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

- ①教員の方々は大変忙しいとは思いますが、常に知識・技術のインプットに励んで欲しい。(後藤委員)
- ①教職員研修内容をより充実させていきたい。令和4年3月に実施予定あり。(学内委員 中川)
- ②カリキュラムを時代のニーズに合わせて、きめ細やかに改変していくことが大切である。(梶原委員)
- ②現在、カリキュラムの更新を考慮中。(学内委員 中川)
- ③コロナ禍で海外研修が今年度はなくなっている。海外とのやり取りを途切れないようにすることが必要だ。(天野委員)
- ③コロナ禍においては、オンラインを通して海外と繋がっていきたい。(学内委員 中川)

(4) 学修成果

評 価 項 目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2		不適切 = 1	
就職率の向上が図られているか	4	③	2	1
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1

- 就職指導に関しては就職活動が本格化する1年次の冬に向けて、業界研究・履歴書の書き方・就職面接等の指導を丁寧に行っている。
- 退学率の低減に向けて、問題を抱える学生への早期対応を実施している。
- 卒業生については、就職先企業との連絡を密に取るよう常に留意している。

今後に向けての方策

- 就活に取り組むスタートが遅い学生に対して、よりきめ細やかなサポートを行っていきたい。
- 2021年度前半に関しては、コロナの影響による家庭の経済的困難等により退学者が例年より若干増加した。退学率低減を目指し、今まで以上に丁寧な学生対応を全教職員で行っていききたい。メンタル面で不安定な学生も見かけられる。心の健康に留意をしていきたい。

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

- ①毎年、退学者が少ないことは大変喜ばしいことだ。退学者を減少させることこそが、高等学校サイドの本校への信頼を深めることだと考える。(天野委員)
- ①退学率3%以下を念頭に、学校をあげて学生指導にあたっている。(学内委員 中川)

(5) 学生支援

評 価 項 目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2		不適切 = 1	
進路に関する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	④	3	2	1
学生への経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1

- 春に健康診断を実施（全学生・全教職員対象）。また、毎年4月に学生健康調査を実施。これらの結果を踏まえて、卒業までの2年間の学生健康管理を適切に行っている。
- 経済的な支援には、日本学生支援機構の奨学金、国の教育ローン（日本政策金融公庫）などがある。本校では指定校推薦・公募推薦の高校推薦入試枠に対しての学費減免制度を設けている。更に、特待生選考制度利用による学費減免も用意している。多くの学生が利用している。
- 保護者に対しては、フラワー体験授業、後援会総会、学園主催教育懇談会（対象：後援会役員）などの機会を通して本校の教育活動の周知を図っている。

今後に向けての方策

- コロナ禍にあって、求人内容に変化が見られる業界もある。学生の希望と求人側とのマッチングが正しく行われるようより一層努力していきたい。

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

- ①学校の状況に関して、担任から保護者に宛てて逐次 LINE 等を通して連絡が入るので安心している。（高木委員）
- ①コロナウイルスに関して、保護者の方々の不安も大きいと考える。保護者の方々が不安を持たれることがないよう、できる限りの情報発信を続けていきたい。（学内委員 中川）

（6）教育環境

評 価 項 目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2	不適切 = 1		
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

- 施設・設備に関しては、3分野の実習授業で必要となるものを完備している。
- 学外の実習授業・インターンシップ、海外研修の場等については、関連分野の企業との連携のもとに研修場所を確保している。
- 自衛消防組織をつくり、防災に努めている。
- 今年度上半期に、学内無線 LAN の整備を実施。

今後に向けての方策

- 災害に対する意識を高め、発生時に安全を守るための正しい行動が取れるよう指導していきたい。

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

- アルバイトやインターンシップを多くの学生が行っているが、更に、より積極的に現場経験を積ませるアプローチをしてもよいかと考える。（井上委員）
- 1年次より、アルバイトやインターンシップなどへの参加を学校を挙げて促している。学生が望む現場での就業体験ができるよう、配慮していきたい。（学内委員 中川）

(7) 生徒の受入れ募集

評価項目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2	不適切 = 1		
高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	④	3	2	1
学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

- 高校訪問時に訪問高校の卒業生の、最近の学校生活での様子・資格取得状況・就職内定状況等についてできる限り丁寧な説明を行っている。このような卒業生に関する報告により、高校との信頼関係を深めている。
- 意欲的な学生をサポートするために、学費減免のある高校推薦入試を推奨している。
毎年、高校推薦入試を希望する学生が多い。

今後に向けての方策

- 本校の教育内容（授業内容・資格取得・就職）についての周知を引き続き図っていききたい。

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

- ①社会と関わるさまざまなイベントをしている学校なので、その活動を高校サイドに知らしめていく必要がある。
(梶原委員)
- ①今年度は昨年度に比べ、高校訪問回数が増加している。訪問の際に学生の活動等を高校側にしっかりと伝えていきたい。(学内委員 中川)

(8) 財務

評価項目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2	不適切 = 1		
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

- 学生生徒等納付金が財務の基盤となる。広報活動内容を常にブラッシュアップしながら積極的に行っている。
- 経費削減に努め、当年度収支差額はプラスを維持している。
- 学園本部による内部監査が年2回、公認会計士監査が年3回行われ、適正な会計処理を行っている。学園の財務情報はHPにて公開されている。

今後に向けての方策

- コロナの影響で、対面のOCへの参加人数が若干減少傾向にある。
オンラインOCを併用し、その減少分を補えるよう努力していききたい。

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

- 「財務」に関しては、評価委員より妥当と評価され、ご意見はありませんでした。

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2	不適切 = 1		
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

○法令、専修学校設置基準等を遵守し、円滑な学校運営を行っている。

○個人情報に関しては、学生及び教職員に関する一切の情報の持ち出しを禁止している。

○SNSを利用して広報活動を行う機会が多くある。学生の写真等が掲載される場合には、事前に掲載の可否を必ず本人に確認している。

○自己評価は、2020年より公開し、問題点に関しては教職員で共有している。

今後に向けての方策

○自己評価結果を踏まえて、それを次年度へ活かしてゆく体制を整えていきたい。

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

○「法令等の遵守」に関しては、評価委員より妥当と評価され、ご意見はありませんでした。

(10) 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2	不適切 = 1		
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
学生のボランティア活動を奨励しているか	④	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

○最近の社会貢献・地域貢献については、以下の通りである。

ブライダルビジネス科・・・本物の結婚式プロデュースの実施（無償）

フラワービジネス科・・・星ヶ丘テラス/ガーデン施工（無償）

トータルビューティ科・・・校内ビューティサロン（1コイン）

※2007年より学校前の国道19号線交差点付近の歩道及び植栽帯の清掃活動と美化に努めた活動に対して、2021年8月、国土交通省より感謝状授与があった。

今後に向けての方策

○授業や課外活動を通して、社会への貢献活動を継続する。

■学校関係者評価委員会コメント・質疑

①ブライダル・フラワー・ビューティの3分野とも、社会で必要とされ注目を集める分野である。在学中に学生が学びの分野において社会と繋がり、働くことの意味に気づいてくれれば素晴らしいと考える。（梶原委員）

①学生が学校の外へ視線を向けていけるよう、授業等を通して促していきたい。（学内委員 中川）